

8.5

地方空港の現状と課題を共有し、新たな連携につなげる

2026地方空港サミットin松本

地方空港の将来を考える「地方空港サミット」が、長野県松本市で初開催された。当日は国、地方空港を持つ自治体、空港管理者、商工会議所関係者など約350名が参加。当商工会議所からは川崎会頭、吉井副会頭をはじめ神戸空港委員会メンバーが出席した。

記念講演では(株)フジドリームエアラインズ会長の鈴木与平氏が登壇し、「地方空港とリージョナル航空は、地方創生に向けた共創パートナーとしてより一層協力していく必要がある」と自社の取り組みを交えて展望を語った。

パネルディスカッションでは、“地方空港の利活用促進”をテーマに活発な議論が行われ、サミット終盤には、「地方空港間ネットワークの維持・強化への支援」「地域一体となった地方空港間路線の利用促進」「地域の魅力発信拠点としての空港機能の強化」に対して、地域の垣根を超えて全国の商工会議所が協力して取り組むことが決議された。同サミットは今後も定期的に開催することとしており、今回は神戸での開催を予定している。



地域政策部

8.5

業務変革の実践ノウハウとAI時代に必要なマインドセットを習得

AIフェス2026

AI分野の第一線で活躍する専門家を講師に迎え、AIの基礎知識や未来像を解説するイベントを地域ICT推進協議会と共催で開催した。

はじめに、(株)ハック取締役の岩崎雅也氏がAIの進化の変遷を解説し、「以前は覚える必要があったプロンプトも、今やAIに聞けば誰でも高度な回答を得られる」と述べた。

次に、元Google執行役員で(株)Arty Intelligence Lab. 代表取締役CEOの橋口剛氏が、法務レビューや会計、OCR処理などバックオフィス業務のデモを実践。「成果を出す

前提条件として、データのクラウド管理などAIが活躍しやすい環境の整備が不可欠」と強調した。

(株)MAKE A CHANGE代表取締役の岡村匡洋氏は、AI社員が24時間稼働する“AIカンパニー”の構築事例を紹介。「今後は定型業務をAIに任せ、人間は創造性や信頼構築といった代替不可能な役割に注力すべき」と語った。

また、地元企業の事例紹介として(株)神戸デジタル・ラボ代表取締役社長の玉置慎一氏が登壇。DX・AI活用成功条件と組織内の役割分担のポイントを解説した。



産業部産業振興チーム

7.29

アスリートのキャリア形成を考える

アスリートのセカンドキャリア支援に向けたトークセッション



神戸スポーツ産業懇話会と神戸市は、アスリートが引退後も市内で活躍するためのセカンドキャリア支援をテーマに、トークセッションを開催した。

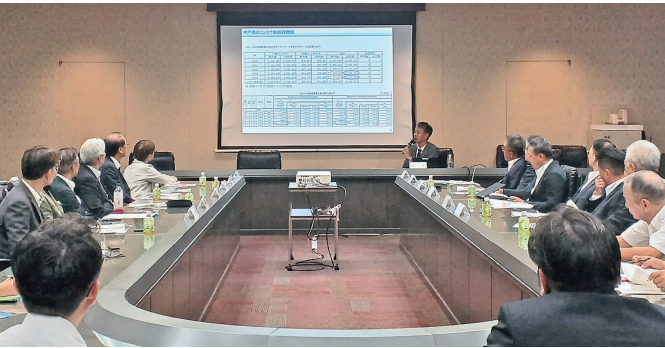
INAC神戸レオネッサの高瀬愛実選手は、「社会経験がないままセカンドキャリアを歩むことに不安がある」と自身の率直な思いを語り、渡辺副会頭は、「選手向けのキャリア研修や、選手と企業が接点を持てる場があれば良い」と述べた。その後の質疑応答では参加者から積極的に質問が挙がり、活発な交流が行われた。

産業部産業振興チーム

8.12

神戸港の物流動向を学ぶ

神戸港活性化委員会 講演会



神戸港活性化委員会は、国土交通省近畿地方整備局副局長の石原洋氏を講師に迎え、「わが国を取り巻く国際物流の動向」をテーマに講演会を開催した。

石原氏は神戸港の港勢や背後圏の現状を紹介し、「神戸港が関西経済を支える拠点であり続けるためには、国際基幹航路の維持・拡大が不可欠」と強調。国内外の先行事例にも触れながら、「大型船への対応に向けた大水深化や自動化・AI導入など、港湾インフラの整備と集貨・創貨の取り組みを両輪で進めていくことが重要」と語った。

地域政策部

8.4

在日外国商工会議所とのネットワーク強化を図る

CCI Business Opportunity Kick-off Meeting in KOBE



神戸商工会議所と在日の外国商工会議所とのさらなる連携強化に向け、国際分野を担当する藤岡副会頭の声かけのもと、インド、韓国、台湾、アメリカ、オーストラリアの在日商工会議所・総領事館が集まるミーティングを相楽園で初開催した。

当日は、神戸と各国・地域との連携促進やビジネスシナジーの創出に向けて活発な議論が交わされ、懇親会では神戸・兵庫産の食材を用いた料理を提供。参加者に対し、神戸の持つポテンシャルや魅力をアピールする機会となった。

産業部国際チーム

8.19

現役教員からAI活用のノウハウを学ぶ

改めて知っておきたいAIの活用術とリテラシー



AI活用の基礎知識やリテラシーの習得を目的に、神戸大学附属中等教育学校教諭の林兵馬氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

林氏は、AIが事実に基づかない情報を生成する“ハルシネーション”の留意点とともに、AIに逆質問をさせてアウトプットの質を高める活用術などを紹介。また、企業が承認・管理していないツールに従業員が個人の判断で利用する“シャドーAI”の危険性にも触れ、「生産性向上だけでなく、リスク管理の面でもAIを活用できる環境を企業として整えることが重要」と強調した。

産業部産業振興チーム

8.21 日本式経営を学んだ ベトナム企業経営者が訪日

ベトナム企業経営者とのビジネス交流会in神戸



神戸商工会議所では、ベトナムに設立された国際人材育成・日越ビジネス交流機関「ベトナム日本人材開発インスティテュート（VJCC）」と連携し、会員事業所とVJCC日本式経営塾OBの企業経営者とのビジネスマッチングを通常で実施している。

今回、同経営塾OBの経営者30名が来神することをきっかけに、VJCCと合同でセミナー&展示・交流会を開催。当日は約100名の参加者が集まり、ベトナム企業が出展する各ブースで活発な交流・商談が行われた。

産業部国際チーム

8.25 中小企業のサイバー対策を学ぶ

サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度（SCS評価制度）説明会



情報・サービス文化部、金融・専門サービス部会、企業経営委員会は、大阪商工会議所経営情報センター次長の野田幹稀氏を講師に迎え、サイバーセキュリティに関する説明会を開催した。

対策が手薄な組織を経由して侵入する“サプライチェーン攻撃”の増加を踏まえ、経済産業省が新たに構築した、企業の対策状況を評価する「SCS評価制度」を解説するとともに、新設される「サイバーセキュリティお助け隊サービス（新類型）」の実証事業について紹介した。

中小企業振興部

8.26 女性が活躍できる職場環境を考える

女性の更年期と仕事の両立を考えるフォローアップ交流会



神戸商工会議所と神戸市は、女性の更年期と仕事を両立するために必要な職場での支援について、意見交換を行う交流会を開催した。

参加者からは「年齢差のある職員や男性からの理解を得るのが難しい」「デリケートな問題のため話題にしづらい」などの意見が挙げられた。進行を務める(株)よりそる代表の高本玲代氏は、「更年期は個人ではなく企業課題ととらえ、休暇制度や相談しやすい職場環境を整えることが重要。セルフチェックによる可視化も有効だ」と語った。

産業部産業振興チーム

8.26 Instagramで 来店・予約につなげる仕組みを学ぶ

小さなお店・個人サロンのための集客設計セミナー



店舗の発信力強化を支援するため、epiceプランニング(株)の山下良枝氏を講師に招き、Instagramを活用した集客設計セミナーを開催した。

山下氏は、「商品の見せ方だけでなく、いかに情報を届けるかが大事」と語り、Instagramのアカウント設計の重要性について解説。あわせて、リールやストーリーズ、フィード投稿など、各機能の役割や使い方について説明した。

参加者からは「これまではストーリーズのみを投稿していたが、他の機能もうまく活用していきたい」との声が聞かれた。

西神戸支部